

アゼルバイジャンにおける風力発電

アゼルバイジャン政府によると、2020 年のアゼルバイジャン国内の発電容量は 7,516MW でした。そのうち大型水力発電を含めた再生可能エネルギーによる発電容量は 1,278MW で全体の 17%を占めています。(政府は、この割合を 2030 年までに 30%まで引き上げることを目標にしています。)一方、大型水力発電を除いた再生可能エネルギー発電の容量は 168MW で、総発電量の 2.2%となっています。風力発電に限ってみると、発電容量は 66MW で、国内 5 カ所に発電所が建設されています。

国際再生可能エネルギー機関(IRENA)による、アゼルバイジャンの再生可能エネルギー分野の評価報告書(2019 年)では、アゼルバイジャンは風況が極めて良く、特にカスピ海沿岸地域が適地であると指摘されています。アゼルバイジャン政府は、潜在的には 3,000MW の風力発電が可能であると試算しています。

アゼルバイジャンで稼働中の風力発電所には、2018 年 10 月に稼働開始した、首都バクーの北に位置する新ヤシマ風力発電パークが含まれます。同発電パークの発電容量は 50MW で、独ファーランダー社製の FL2500 風力タービンが 20機利用されています。

また、昨年 12 月には、エネルギー省、アゼルエナジ社、サウジアラビアの ACWA パワー社が、240MW の風力発電所建設に関して、投資契約、PPA(電力販売/購入契約)、接続契約を交わしました。さらに、4 月 14 日には、エネルギー省と国際金融公社(IFC)との間で覚書が交わされ、IFC は同覚書に基づき、アゼルバイジャンにおける洋上風力発電開発ロードマップの策定を支援することになりました。IFC は、カスピ海上と沿岸地域における風力発電の潜在性等の調査を支援します。エネルギー省は、将来的に同ロードマップを実施に移し、洋上風力発電分野における官民連携の推進を目指すとしています。

アゼルバイジャン政府は、昨年の対アルメニア戦争の結果として解放された地域における再生可能エネルギーの潜在性の調査を進めており、同地域のラチン県とカルバジャル県の山地で 500MW の風力発電が可能との試算も出されています。

(以上)